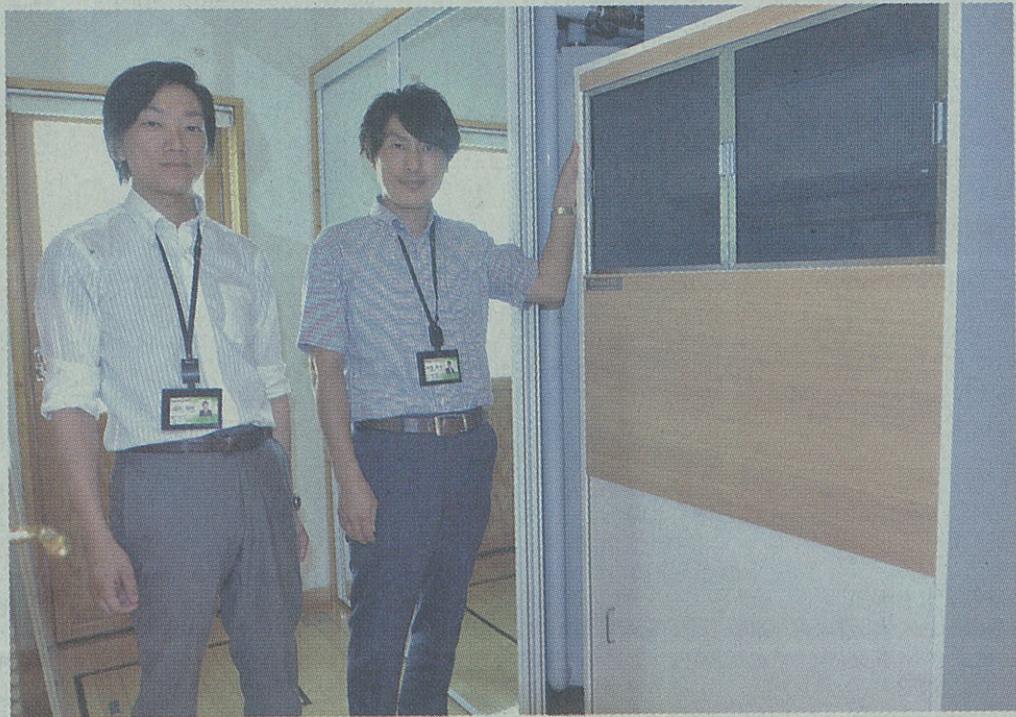


エコ性能強化へ蓄熱材利用



エアコン1台で全室冷暖房

住まいのウチイケ（室蘭市八丁平、内池秀光代表取締役）のモデルハウスで行われている、1台のエアコンで住宅全室の冷暖房ができる新システム開発が、よりエコ性能を高める新たな段階に入る。床下に蓄熱材を敷き詰めての潜熱利用や太陽熱を集めて各室に送る仕組みの実証などに間もなく着手する見通し。（粟島暁浩）

新たな開発は一層のエコ性能のアップだ。計画によると住宅の床下に潜熱蓄熱材を敷き詰め、冬場は日中の暖かい時間帯の熱を蓄えて必要な時に使う。夏は夜間に下がる外気温を吸収。エアコンの稼働を抑えるとともに光熱費の軽減や機器の長寿命化を目指す。

度から共同開発している。同モデルハウスには、一般的なエアコン1台で住宅間や寝室など各室に床下の配管を通じて送風。通常のエアコンのように直接風が当たることがなく、室内の均一な温度を実現する。

さらに快適性を測るPMVの値も基準を満たし、全室が快適な状態にあることを数値化し実証。報告書にまとめた。内池代表取締役

システムのエコ性能強化に向け意欲を高める内池代表取締役（右）と、事業担当の成田智昭次長

同事業はノーステック財団（札幌）の事業採択を受け、同社やエコテック（札幌）、北海道科学大寒冷地研究所（同）など5者で昨年

さらに太陽熱パネルを新設し、集熱器で集めてエアコンの送風システムに送り込み効率を高める。このシステムの実現には高性能住宅との組み合わせが必要である。

室蘭・住まいのウチイケ、開発新たな段階に

は「快適指数の数値化ができた。新たな実証にも挑戦した。住宅の性能も一層高め、快適基準内の住宅を今後お勧めしていきたい」として